

千人同心の足跡をしのび

一五九キロを完歩

姉妹都市八王子の市民六十二人

江戸時代、二社一寺と日光町の「火の番」役で活躍した千人同心が、日光勤番のため往還した街道の足跡をしのぼうと、姉妹都市八王子市の市民六十二人は一五九キロを五日間歩き続け、八月二十一日午後三時三十分、日光市役所に無事到着しました。

市役所前広場では、日光小鼓笛市役所へ到着の一行



隊と日光中バスバンドの演奏で歓迎、沿道の市民も一行を拍手で迎えました。

八王子・日光完歩者は、女性十五人を含めて、最年長者が七十四歳、最年少者十一歳と年齢もまちまち。「江戸の汗を現代に」をキャッチフレーズに「歩こう探ろう八王子千人同心と日光往還」と染めたそろいのTシャツ姿で、一五九キロを歩き通しました。

日光地方の天候は、あいにくの雨でしたが、日光・八王子両青年会議所の人たちのお世話で、足どりも元気に到着。早速、市役所大会議室で「八王子・日光完歩者の歓迎会」を開きました。八王子市

長からのメッセージが披露され、星野市長と榎本市議会議長、日光小六年齋藤高央君が「ようこそ日光へ」と、歓迎のことばを述べました。

その後、記念メダルの贈呈が行われ、代表者には市長と議長から、その他の人々には「ミス日光」の高橋恵子さんと鈴木順子さんから一人一人の首にメダルがかけられました。

翌二十二日、八王子・日光完歩者の人たち六十二人は、二社一寺を参拝、浄光寺にある千人同心の墓や顕彰燈に献花して、姉妹都市の日光市を後に八王子市に帰りました。



ミス日光から記念メダル贈呈

「ガン」の危険信号に「注意」

9月は「ガン」征圧月間

「天高く、馬肥ゆる秋」の九月は、「ガン」征圧月間」でもありません。ガンで亡くなる人は年々増えており、昨年は全国で十五万人を超えました。

自分の健康は自分で守る——ガンをただ恐れるだけでなく、正しく知り「早期発見、早期治療」を心がけましょう。

ガン早期発見の「目安」として日本対ガン協会が発表した「ガンの危険信号」を参考に、ときどき「自己検診」してみてください。

ガンの危険信号8か条

- ★ガンは無症状のうちに芽ばえます。とくに胃、子宮などは、年1回検診を受けて、安心しましょう。
 - ★つぎのような症状があったら、すぐ専門医に診てもらいましょう。
1. 胃……………胃の具合がわるく、食欲がなく、好みが変わったりしないか
 2. 子宮……………おりものや、不正出血はないか
 3. 乳……………乳房の中にシコリはないか
 4. 食道……………のみこむときに、つかえることはないか
 5. 大腸、直腸……………便に、血や粘液がまじったりしないか
 6. 肺、喉頭……………セキが続いたり、タンに血がまじったり、声がかすれたりしないか
 7. 舌、皮膚……………治りにくいカイヨウはないか
 8. ジン臓、ポウコウ、前立せん……………尿の出が悪かったり血がまじったりしないか

日本対ガン協会制定